



図書館便り 7月号



東峰学園（中学部）梶原弥生

“読書の夏”しませんか。雨があがり、暑い夏がやってきました。夏休みは外出する機会が多くあります。でも、時には読書を楽しみませんか。新しい本もたくさん届きました。涼しい図書館で心に残る1冊を見つけてください。

第67回 西日本読書感想画コンクールの指定図書が決まりました

しずかな魔女（市川朔久子/作）

中学1年の草子は、学校に行く代わりに図書館に通う日々を送っています。司書の深津さんにしゃべるのが得意ではないとつぶやいた草子は、「しずかな子は魔女に向いている」という謎のメモを受け取ります。



空から見える、あの子の心（シェリー・ピアソル/作）

いつも一緒だった友だちとのランチの時間が億劫になり、その時間は、「友だちベンチ係」のボランティアをして時間をつぶすことにした、小学6年のエイプリルは、校庭をひとりで歩き回ったり、寝そべったりする男の子、ジョーイが気にかかります。いったい何をしているのだろう。

ボーダレス・ケアラー（山本悦子/著）

祖母が飼っていた犬の豆蔵が死んで、ひと月あまり。海斗は豆蔵の空のリードを持って散歩していると、ボーダーになった豆蔵や他のボーダーが見えることに気がきます。（ボーダーとは生と死のはざまにいる存在のこと）

海斗はボーダーの生前の思いを調べ、その思いを遂げる手伝いをします。



夏休みにおすすめの1冊 長編に挑戦!!

「保健室経由、かねやま本館。」松素めぐり/著 1~6巻

「疲れたら、休んでもいいんだ」。かねやま本館で会うこどもたちとの交流や温泉での休けいを通し、自分自身の悩みに向き合っていく心温まる物語です。最新刊6巻、届きました!!

「かがみの孤城」(辻村深月/著)

中学1年のころは、ある出来事をきっかけに学校へ行けなくなり、いつも家で過ごしています。ある日、ひとりで家にいると部屋の鏡が突然輝き始めました。2018年、本屋大賞受賞。

「一瞬の風になれ」1~3巻(佐藤多佳子/著)

神奈川県、春野台高校の1年生、一ノ瀬連は、走る才能に満ちあふれたマイペースな高校生。そんな天才を親友にもった神谷新二が、陸上競技を通じて成長していきます。2007年、本屋大賞受賞。



「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー1・2巻

日本人の母（著者）とアイルランド人の父をもつ「ぼく」は、成績優秀なカトリック系の小学校に通っていたが、中学校は“元定辺校”に進学することに。そこでは毎日がトラブルの連続、いじめやケンカは、日常茶飯事。人種差別的な発言も多く、様々な問題を抱えていました。

「准教授・高槻彰良の推察1～8巻

怪異大好き准教授・高槻とウソを聞き分ける耳を持つ大学生・深町尚哉のもとに小学校でうわさのコックリさんの調査依頼がきます。「コックリさん、あなたはだれ？」との質問に出た答えとは・・・。

「蜜蜂と遠雷」(恩田陸/著)

3年毎に開催される、芳ヶ江国際ピアノコンクールを舞台に音楽を描き切った物語です。509ページと長編ですが、一気に読めます。2017年直木賞、本屋大賞のダブル受賞作品です。

「青春サプリ。心が元気になる、5つの部活ストーリー」

部活をテーマにした青春ストーリーです。すべて実話で共感できるところがあると思います。

「あずかりやさん1～5巻(大山淳子/著)

「一日百円で、どんなものでも預かります」。東京の下町にある商店街のはじでひっそりと営業する「あずかりやさん」。店を訪れる客たちは、さまざまな事情を抱えていて「あるもの」を預けようとするのですが・・・。

「ラン」(森絵都/著)

環は13歳で家族を亡くし、その後、一緒に暮らしていたおばさんも亡くなります。自分は不幸な人間なんだと思いながら、毎日過ごしていました。そんな時、1台の自転車を手に入れます。

自転車に乗り、導かれるようにたどり着いたのは・・・。

「とにもかくにもごはん」(小野寺史宜/著)

事故で夫を亡くした女性が開いた「子ども食堂」が舞台です。夫が生前、夜の公園でパンを食べていた少年について「家でごはん食べさせてやればよかったな」と話した思い出が、開くきっかけです。運営する苦労やそれぞれが持つ問題が描かれています。



夏休み図書館開館日

7月31(月)
8月 1(火) 2(水) 3(木)
4(金) 7(月) 8(火)
9(水) 21(月)
5冊、借りることができます。

8月22日～24日は、図書館閉館です。
返却をお願いします。